



厳しい時代到来の予兆を感じませんか？

ミャンマーのサイクロンや四川大地震、日本を含む世界各地の異常気象、サブプライムローン問題や食料・原油価格の高騰、道路特定財源暫定税率問題や後期高齢者医療制度導入による混乱等々、地球規模の天災・人災から政治課題まで、TVの報道番組のネタに事欠くことはありません。そして、こうした事の影響が私たちの日常生活にもジワジワと忍び寄って来ているように思えます。

新名神開通、予想以上の通過車両やSAやPA、ICの利用に沸いています。が、甲賀市政も決して順風満帆とは言えません。厳しい財政難の中、各種事業の取捨選択や補助事業の削減・見直しが進められています。中嶋市政一期目のまとめの年、共に先を見据えて取り組まねばと思えます。しかしながら、昨年末の夢来で「心機一転励みます」と大見得を切った私ですが力不足です。自らに「活を入れ直さねばなりません！

市政の懸案事項

厳しい財政事情

平成二〇年度予算は、昨年度より八億円減の三百十九億五千万円となりました。三位一体改革による地方交付税の削減や合併前後の特例債による事業の償還が始まったことにより、今後も一層厳しくなります。かつてのような潤沢な予算を得るには、新名神開通で企業誘致を図るしかないのでしょうか。

水口市民病院の診療所化

水口市民病院が医師の確保が出来なかったことにより四月一日より診療所化され、水口医療センターとなりました。全国的な医師不足の問題を甲賀市も被るものになりました。

甲賀病院の移転問題

甲賀市民の医療の拠点甲賀病院の移転場所は、水口町松尾の市有地になりそうです。今年度予算で国道一号線のバイパスからの導入路建設の予算が承認されたことから伺えます。近日中に病院組合議会に諮られます。

あいこっかネットワーク

市内の情報格差の解消と、放送と通信の一元化を図ることを目的に、市内事業者を民間活用することで進められてきました。が、事業主体に問題点が見出され、再構築することとなりました。一日も早いネットワークの構築が望まれます。

今井副市長の辞職

今月八日、今井副市長が辞職されるといふ緊急事態が勃発しました。信楽町長時代の助役の収賄容疑逮捕に伴う道義上の責任を取った事です。中嶋市政にとつて女房役の副市長の辞職は今後の市政運営に多大な影響を与えるものと思われま。市政運営に支障のないようサポートしていきたいと思います。

町内の懸案事項

平成二十年度予算町内主要事業

- 土地区画整理事業(寺庄駅周辺) 五〇二〇万円
- まちづくり交付金事業(寺庄駅周辺) 一億一三一一万六千円
- 甲南IC開通記念事業 四二万三千元
- 予算書に見る甲南町単独の事業は寺庄駅周辺整備事業だけで、甲南駅周辺整備については、前年度継続事業のみで、新たな予算化はみられませんでした。

希望ヶ丘上下水道の移管

長年の懸案事項であった希望ヶ丘地区の上下水道が、12月31日をもって市に移管されることは、平成16年に東洋開発と甲南町との間で締結されていました。しかし、クリアしなければならぬ課題がまだ残されており、今後の早急な調整が待たれます。

甲南ICの開設は今年度中

道路特定財源が国会を通過したことに伴い、甲南ICの工事が再開されます。一日も早い完成が待たれます。

市のスポーツ振興策について

次の六点について質問しました。
スポーツの活動状況と今後のあり方
中学校の部活動への支援
部活動における中高の連携
好成績の児童生徒への激励と顕彰
総合型地域スポーツクラブの活性化
地域密着型のクラブチームの育成
教育長より各項目について現状の説明があり、スポーツの振興が市の活性化と健康増進上最も重要であり、健康・スポーツのまちをめざすとの答弁がありました。

全国学力状況調査の結果は

全国の小六と中三生を対象に、昨年四月に実施された学力テストについて、次の五点について質問しました。

学力調査結果の分析・公表は
甲賀市の児童生徒の学力状況は
滋賀県の学力調査結果は平均以下、このことをどう捉えるか。
学習状況調査に見る甲賀市の子どもの状況は
市独自の学力調査でもよいのではないかと教育長より、公表しない。甲賀市の子どもの学力はほぼ全国平均に近い数値。検討委員会で対策を練り、次年度に生かす。家族と一緒の食事、家庭学習の時間、社会的事象への関心で国・県の平均以下。県・市の状況把握、個人への対応や手だてのため今年度も実施との答弁であった。

C型肝炎患者の救済について

苦しみの中にある患者の方の手記をもとに質問したが、明確な答弁は得られず。

六月議会の質問予定

甲賀広域農道の整備について

甲南IC開設に伴う広域農道の整備はどのようなにされるのか
IC入口の右折レーンと信号は
柑子塩野線と広域農道交差点の信号は平成17年12月議会で質問した、IC入口付近のカーブと勾配について、県道甲南阿山伊賀線までの区間の概略設計を発注したとの答弁があったが、その後どうなっているか。
広域農道の農道と県道はどのように区分されているのか。
現在工事中の柑子塩野線(新名神側道)完成後は、広域農道はこの管轄(農道、市道、県道)になるのか。
IC周辺の最も交通量の増大する部分の整備・補修はどこが行うのか。
広域農道は現状でも、伊賀と甲賀を結ぶ最短路として幹線道路化している。
IC開設で通行量がさらに増大すると考えられるが、現状で対応できると考えておられるのか。
特に無従谷の谷筋と尾根筋を横断するため、アップダウンが連続し、視界が悪く、事故が多発している。このことに対応されるのか。
ICへのアクセス道路となる県道甲南阿山伊賀線の伊賀市へのルートは策定済みなのか

大きなたつばやき

日本の国政は議院内閣制ですから、選挙で選ばれた多数党(連立もある)の国会議員の中から首相をはじめ大臣の多くが選任され、行政府の各省庁を運営する官僚を指揮して国政にあたります。法律も議員提案でも定められますが、法案のほとんどは行政が作成し内閣が提示し国会で審議・議決されます。道路財源や後期高齢者の問題もこうした政治システム運用上に問題があるように思います。

一方、大統領制は二元代表制で、大統領と議員は別々に選ばれます。行政府も大統領と一緒に総入れ替えと言っても過言ではなく、法案は議員提案のみで、大統領は一切提出できません。ただ、法案の拒否権が大統領には与えられています。連日放映されるアメリカ大統領選の異常な盛り上がりは原点はどこにあるのでしょうか。

日本の県政や市政は、この二元代表制を採用していません。しかし、条例案のほとんどは国政と同じく議会ではなく行政が作成し、知事や市長が提出します。議会には首長の不信任議決権があるとは言え、日本の地方政治では知事や市長の権限は大統領制以上に強大です。大阪府の橋下知事を見て一層そう思いました。まもなく重要な市長選挙です。市長や行政に対して市議会はいかにあるべきか。考えさせられます。

おねがい

一般質問への要望、「行政」や「教育」に関わる要望や相談をお寄せ下さい。一緒に考え行動します!

電話・FAX 八六 二二三九

メール yumekuruki@bb.ne.jp

審議会等への議員の参加、傍聴について